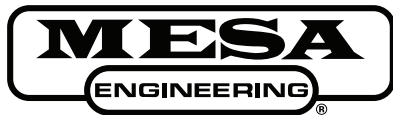


**SUBWAY+<sup>®</sup>**  
**BASS DI-PREAMP**

**取扱説明書**



## 安全上の注意

- ・ この取扱説明書をよくお読み下さい。
- ・ この取扱説明書に従って下さい。
- ・ 本商品を水分の近くで使用しないで下さい。
- ・ 本商品を掃除するときは乾いた布のみを使用して下さい。
- ・ 本商品に対応した電源アダプターのみ使用して下さい。
- ・ 電源コード、特にプラグ部分は踏んだり無理に引っ張ったりしないで下さい。
- ・ 本商品は雷が鳴っているときや長い時間使用しないときは電源を接続しないようにして下さい。
- ・ 本商品に不具合が生じた場合は最寄りのMESA/BOOGIE取扱楽器店または修理業者に相談して下さい。  
また液体やゴミが商品内部に入らないように注意して下さい。故障の原因となります。
- ・ 照明の近くで本商品を使用したり保管しないで下さい。
- ・ **警告**：火事や電気ショックの危険を避けるため、本商品を雨や水分にさらさないようにご注意ください。
- ・ スピーカーや再生機器を損傷しないように、本商品と他の機材と接続する際は電源を切っておいて下さい。
- ・ 今後も参照して頂けるようにこの取扱説明書を保管しておいて下さい。
- ・ 本商品のボタンやスイッチ、コントロールを操作する際は力を入れすぎないようにして下さい。また本商品を掃除する際はベンジンやシンナー等は使用しないで下さい。
- ・ 本商品のリアパネルに記載されている仕様を持つ電源アダプターのみを接続して下さい。また本商品を使用する地域で正しいアース接続が行われるようご注意ください。誤った接続やアース接続による故障は保障の対象外となります。

## OVERVIEW

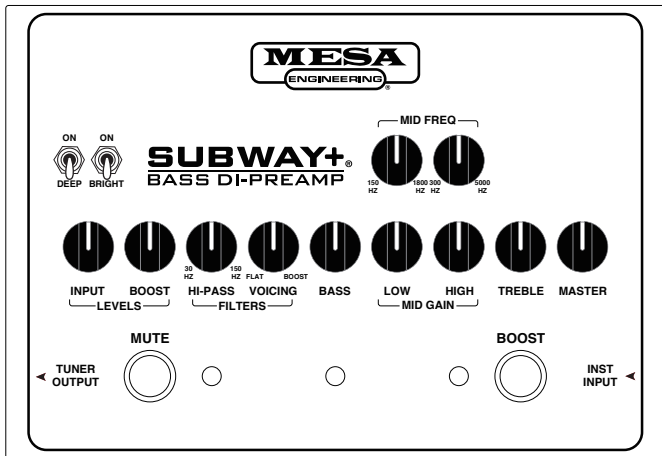
この度は、SUBWAY® PLUS BASS DI-PREAMPをお買い求めいただきありがとうございます。そしてMESA/Boogieファミリーへようこそ！ まず最初に、あなたのアンプにMESA/Boogieをお選びいただきありがとうございます。私達は、あなたの音楽制作の手助けが出来ることを心から嬉しく思います。我々が目指しているのは、少しでもあなたの作品が良いものになるようにいつでも力になれる準備をしておくことなのです！ 私達は、この新しいアンプがこれから永きに渡り、あなたの信頼を獲得し、あなたの音楽を自由に表現するための良きパートナーとなれることを確信しています。

あなたが選んだアンプは、いくつもの優れたアンプが生み出された中でも、大いなる遺産となるトーンの聖書とでも呼ぶべきモデルです。その元祖はMESAがこれまで開発した中の一番最初のMESA 450 Bass Headにさかのぼります。実際、MESAの最初の5種類のベースアンプはラグニタス山の山小屋で作られました(ギターアンプについての圧倒的評判によって見劣りするちょっとした知識ではありますが)。しかし我々はいつもベースアンプに愛情を注ぎ、そして当初から、我々の表現で素晴らしい製品を発表出来るように取り組んできました。MESAのベースアンプの血脈は、1980年の最初のラックマウントシャーシのベースアンプD-180から引き継がれています。'80年代中盤にはBASS 400が登場し、1988年後半には6L6管を6本加えてトータル12管をパワーセクションに持ち、素晴らしいピッチとパンチにパワーを兼ね備えたBASS 400+が登場します。

400+は20年に渡って世界中の最も才能のあるベーシスト達によってクラシックとなりました。Paul McCartney, Mark King, Stanley Clark, Jack Blades, Michael Anthony, BlaskoそしてBootsy Collinsといった面々、そして他にも国際的なスター達が400+をセンターステージに設置し、20年といった周期の中でバンドを支えているのです。これらの象徴的なアンプは、中古市場を見れば今なお高値で取引がされています。MESAは、それによってベースアンプ市場での地位を確立した、フルラインでのチューブドライブ・MOSFETアンプのバイオニアでありつつ、長い時と経験を経て、我々はトーンの遺産・伝統といった真のものを残したまま、完全に新しいアプローチでベースアンプを作ることとなりました。

トーン・フリークに朗報です！ SUBWAY PLUS BASS DI-PREAMPは、MESAのベースアンプの血脈を受け継ぐ次のステップとなるものです。オリジナルのSubway DI-PREAMP、D-800、D-800+の成功を基にしたこの新しいDI-PREAMPは、したたり落ちるようなトーンとパワーをコンパクトかつ軽量の筐体に封じ込めており、ベースのスペクトル全体をコントロールして次世代ベースプリアンプへの象徴的の第一歩となります。SUBWAY WD-800は、アメリカはカリフォルニア州のベタルマで世界中で最も優れた材料を使用して、ハンドメイドにて生産されています。

## フロントパネル(コントロールと機能)



### INPUT ジャック

このジャックは、DI-PREAMPの初段のモノリシックJ-FETインプットバッファアンプに信号を送る楽器(ベース)用のINPUTです。このステージは本質的にトーンの色付けがないキャラクターで、DIアウトが"PRE-EQ"のポジションに設定されているときにはDIへダイレクトに信号を送ります。入力感度はINPUT LEVELコントロールで調整可能で、ローレベルのパスシブピックアップとハイレベルのアクティブピックアップの両方に対応したレンジとなっています。1/4"(6.3mm)プラグがジャックに接続されているときは電源が自動的にONになりますが、1/4"(6.3mm)プラグはTIP-SLEEVEタイプ対応で、TIP-RING-SLEEVEタイプだと回路が正しく動作しませんのでご注意ください。なお、エンジニアにDI-PREがONなのかOFFなのか伝えておくことと余分なポップノイズや予期せぬ信号がシステムに送信されるのを防ぐことが出来ます。

**TUNER OUTPUT ジャック** シャーシ左側のこのジャックは楽器のスルーアウトプットで、インプットジャックの信号とパラレルになります。ここからの信号はベースからのダイレクトの信号になります(独立していません)。MUTEフットスイッチがONのときもこのアウトプットはアクティブのままなので、DI OUTPUT、FX SEND、またはPREAMP OUTPUTジャックには信号を送信せずにサイレントチューニングが可能です。

**MUTE フットスイッチ** このスイッチは、上記のサイレントチューニング時などにTUNER OUT端子を除くすべてのアウトプットに送信されているオーディオ信号をミュートします。スイッチをONにすると、赤色LEDが点灯しDI OUTPUT、FX SEND、PREAMP OUTPUTジャックにオーディオ信号が送られなくなります。また、他のコントロールを調整しなくても、このスイッチでプリアンプを“スタンバイモード”にすることもできます。

**DEEP スイッチ** このスイッチはDEEP(ディープ)フィルターが作動させ、クラシックともいえる低域のレスポンスとブーストが行われます。フィルターが作動すると、超低域が若干ブーストされ、ハイパスフィルターがかかる周波数帯が下がります。このコンビネーションの効果として、ボトムエンドのレスポンスがより丸く分厚くなります。小さな(コンパクトスタイルの)スピーカーキャビネットの使用時、特にHPFが45Hz以下の設定でベースEQが大きくブーストされている場合は、音量設定が高すぎることによってダメージを受ける恐れがありますのでご注意ください。HIGHPASS CONTROLを少し上げると同時にDEEPフィルターを使用することで、ユニークなトーンを得ることも可能です。

**BRIGHT スイッチ** このスイッチは、BRIGHTフィルターのON/OFFで、ONにするとポピュラーなクラシック・チューブアンプのスイッチ同様、高域のレスポンスを良くします。このスイッチをONにすることで、トーンに明るさや存在感、アタックが加わります。

**INPUT LEVEL コントロール** このコントロールによって、ゲインステージ初段のインプットゲイン、つまり後続のエレクトロニクスステージが動作するレベルが決まります。このコントロールを上げていくことでインプットゲインステージのオーバードライブトーンが得られます。大幅にオーバードライブさせたトーンを使用する場合、TREBLE EQを少し下げることによってトーンの荒さを減らし、BASS EQを下げて明瞭さとインパクトを高めることができます。

**BOOST フットスイッチ** このフットスイッチは、ブースト(ソロ)機能をON/OFFします。ブーストの量は、BOOSTコントロールで設定します。BOOSTモードのときはスイッチ左側の緑色のLEDインジケーターが点灯します。

**BOOST LEVEL コントロール** このコントロールはBOOSTフットスイッチがONのときに適用されるブースト(ソロ)レベルの量を設定します。反時計回りいっぱいに戻すとゲインはほとんど上がらず、時計回りいっぱいに戻すと元のレベルから約6dBゲインが上がります。

**HI-PASS FILTER** このコントロールはDI-PREAMPの低周波のロールオフポイントを設定する、特にドライブが高い状態やEQで低域を大きくブーストしている場合に、超ローエンドのコントロールを維持する上で重要な機能です。この高精度4極フィルターは2つのカスケード接続された2極フィルターで構成されており、1つは約22Hzに設定されたターンオーバー周波数で固定、もうひとつの可変フィルターは低周波ロールオフを30Hz~125Hzで調

整することが可能です。HPFは何十年の間プロオーディオ業界では標準であるのに対し、ベースアンプではいくつかの例外を除いてここ数年以内に見られるようになっただけです。またこのフィルターは機械的な保護機能の意味合いを持ち、スピーカーキャビネットがドライバーに対して十分な音響負荷をかけられない音域以下にパワーを制限します。これは、特にコンパクトなスピーカーキャビネットの場合、スピーカーの寿命を縮めてしまう基本的(かつ避けなければならない)理由の1つです。このフィルターのもう1つの有用な用途は、アンプをオーバードライブするときにローエンドをロールオフすることで信号が濁るのを防ぎ、オーバードライブされた信号のナチュラルなトーンを保持します。

**VOICING コントロール** このアクティブEQコントロールは、アンプのレスポンスをフラットなカーブ(反時計回り方向)からよりボイシングされたカーブ(時計回り方向)へと全範囲の周波数特性をシフトさせることができます。コントロールを時計回りに回すと、ローエンドとハイエンドがブーストされミッドレンジがカットされると同時に、ローとハイの周波数範囲の対応するシフトとともに上側へシフトしますが、これは単純なミッドスクープよりも複雑なトーンシェイプの変更になります。よりボイシングの効いたポジションは、一般的にオールドスクールなファンクやスラップトーン、また丸みのあるボトムと少しバイト感を伴うロックなトーンに使用されます。このパワフルな機能の可能性を追求するために、色々な設定を試してみることが重要となります。最初に設定を行う際は、VOICINGコントロールを時計回りに回して探しているアンプのボイシングが得られたらそこでストップします。時計回りに回すほど、ローエンドのブースト、ミッドカット(周波数もまた変化します)、マイルドなトレブルブーストの効果が大きくなっていきます。基本となるトーンの方向性が決まったら、好みに合わせてEQ、HPFスイッチ、Brightスイッチ、Deepスイッチでより細かなトーンシェイプを行います。

**BASS コントロール** このアクティブEQコントロールは信号内の低域の量を調整するコントロールで、低域(80Hz以下)はトーンのボトム、丸みそしてフィールを担っています。ブースト/カットタイプのアクティブコントロールで、ブースト量は"フラット"(12:00のポジション)から時計回りにどれだけ回すかに比例し、カット量は"フラット"から反時計回りにどれだけ回すかに比例します。一般的に、EQは少しの調整が大きくサウンドを変化させるので、必要な分だけ動かしたらあとは大幅に動かさないようにします。もしとてもコンパクトなスピーカーキャビネットで大音量が必要な場合は、ベースをよりブーストさせることでスピーカーをオーバードライブさせる可能性があるのをご注意ください。もしそれでもローエンドが十分でない場合は、スピーカーを増やして下さい。なお、このコントロールはシェルビングタイプのフィルターです。

**LOW MID GAIN コントロール** このコントロールは信号内の低中域の周波数の量(音量)を調整するコントロールで、低中域の周波数(実際のセンター周波数はLOW MIDフリークエンシーコントロールによって設定されます)は、"アーシー"または"ウッディー"なトーンキャラクターを担っています。ブースト/カットタイプのアクティブコントロールで、ブースト量は"フラット"(12:00のポジション)から時計回りにどれだけ回すかに比例し、カット量は"フラット"から反時計回りにどれだけ回すかに比例します。なお、このコントロールはピーク・ティップ(またはベル)タイプのフィルターです。

### LOW MID FREQUENCY コントロール

このコントロールでLOW MID GAINコントロール調整時のセンター周波数(ピッチ)を設定します。このコントロールを回すと、センター周波数が低域(反時計回り)から高域(時計回り)までスライドされます。LOW MID GAINコントロールが12:00のポジションに設定されているときは、ブースト/カットは行われないためこのコントロールの設定は何も影響しません。スライドレンジは150Hz~1800Hzです。

### HIGH MID GAIN コントロール

このコントロールは信号内の高中域の量を調整するコントロールで、高中域(実際のセンター周波数はHIGH MID フリークエンシーコントロールによって設定されます)は、"ボクシー"、"パーキー"または"アグレッシブ"なトーンキャラクターを担っています。ブースト/カットタイプのアクティブコントロールで、ブースト量は"フラット"(12:00のポジション)から時計回りにどれだけ回すかに比例し、カット量は"フラット"から反時計回りにどれだけ回すかに比例します。なお、このコントロールはピーク・ディップ(またはベル)タイプのフィルターです。

### HIGH MID FREQUENCY コントロール

このコントロールでHIGH MID GAINコントロール調整時のセンター周波数(ピッチ)を設定します。このコントロールを回すと、センター周波数が低域(反時計回り)から高域(時計回り)までスライドされます。HIGH MID GAINコントロールが12:00のポジションに設定されているときは、ブースト/カットは行われないためこのコントロールの設定は何も影響しません。スライドレンジは300Hz~5000Hzです。

### TREBLE コントロール

このアクティブEQコントロールは信号内の高域の量を調整するコントロールで、高域(2.5kHz以上)は、ブライトでキラキラしたトーンキャラクターを担っています。ブースト/カットタイプのアクティブコントロールで、ブースト量は"フラット"(12:00のポジション)から時計回りにどれだけ回すかに比例し、カット量は"フラット"から反時計回りにどれだけ回すかに比例します。なお、このコントロールはシェルビングスタイルのフィルターです。

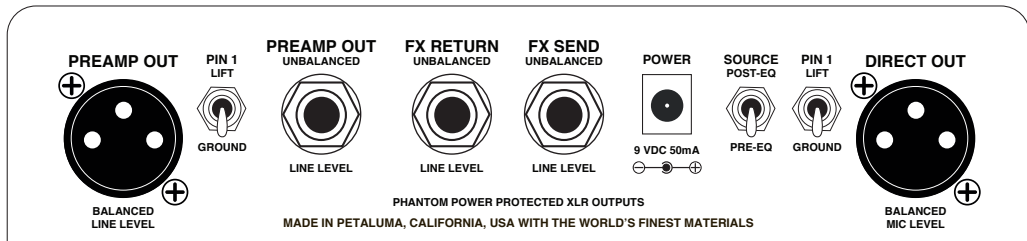
### MASTER VOLUME コントロール

このコントロールはPREAMP OUTPUTジャックに送られる信号のレベルを決定し、DI-PREAMPの全体的な演奏ボリュームを決定します。MASTER VOLUMEとINPUT GAINコントロールを併せて使用することで、演奏ボリュームを最適な状態に調整することができます。例えば、オーバードライブしたトーンを得るために入力ゲインを高く設定する場合は、適正な演奏ボリュームを得るためとパワーアンプがオーバードライブし過ぎるのを防ぐためにMASTERボリュームを低めに調整する必要があります。同じように、もし非常にクリーンなサウンドを求めている場合は、INPUT GAINコントロールを最小値にして、MASTERボリュームコントロールを高く設定すれば、必要な演奏ボリュームが得られます。

### POWER LED

この青色のLEDが点灯しているときは、DI-PREAMPに電源が供給され正常に動作していることを示します。プラグがINSTRUMENT INPUTにインサートされると、SUBWAY PLUS DI-PREAMPは自動的にONになります。TRS(Tip-Ring-Sleeve)タイプのケーブルの場合電源スイッチ回路が作動しないことがあるので、標準の1/4"(6.35mm)TS(Tip-Sleeve)タイプのケーブルを使用してください。

## リアパネル(コントロールと機能)



**電源ジャック** SUBWAY BASS DI-PREAMPは、プラグ部分が標準の2.1mmセンターピン/5.5mmバレルタイプ、9VDCセンターマイナスの電源アダプターで駆動するように設計されています。DI-PREAMP自体に外部パワーサプライからのノイズ耐性がありますが、SUBWAY DI-PREAMPの前後に接続されるエフェクトペダルや機器によってグラウンド・ループノイズが発生することがあります。ノイズが発生したときは、まず最初にDI-PREAMPに電源を供給し、次にノイズの原因となっている可能性があるペダルを1台ずつ追加していきます。

**動作電源について** SUBWAY PLUS BASS DI-PREAMPは、9V電池(アルカリタイプを推奨)または標準の2.1mmセンターピン/5.5mmバレルタイププラグ、9VDCセンターマイナスの電源アダプターのいずれかで駆動するように設計されています。外部電源アダプターが接続されているときは自動的にアダプターでの駆動となりますが、内部電池は有効な状態に保たれます(ACアダプターでの電源供給がされない場合は自動的に電池駆動に切り替わります)。電池は本機の底面にあるバッテリーボックスのカバーを外して取付を行います。内部回路は、電池に問題があったり極性が反転した電源アダプターが接続された場合にも保護されるように設計されています。DI-PREAMPに消費電流は50mA未満で、電池寿命はおよそ40時間ほどとなります(使用条件によります)。ファンタム電源からも保護されていますが、DI-PREAMPの電源自体をONにすることはできません。

**PREAMP OUT XLR ジャック** このジャックはバランス端子となっており、+4dBu(ラインレベル)、最大アウトプットレベル約+12dBuを出力することができます。これは、どんなプロオーディオ・パワーアンプにも接続可能な仕様です。この端子から出力される信号は、全てのポインティングやEQフィルター、MASTERボリュームコントロール通過後の信号となります。また、本機自体はファンタム電源では動作しませんが、ファンタムパワーを持つインプット信号からの誤った接続に備えて完全なファンタムパワープロテクトを備えています。



**PREAMP OUT GROUND LIFT スイッチ** このスイッチで、XLR PREAMP OUTコネクターの1番ピンからサーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、アンプに信号を送る際の1番ピン(シールド)の接続には影響されません。1番ピンはほとんどの場合アンプのグラウンドバスに接続されていますが、しばしば(建物のグラウンド/アース環境の電位差によって異なりますが)通常の接続状態でグラウンド間に電流が流れることでハムノイズを発生させます。これに対して送信側でグラウンドをリフトさせることにより、シールド状態を保ったまま、信号を伝送するコンダクターにハムノイズを引き起こすアース電流をカットすることができます。これを複雑にする1つが、非常に高い(ラジオ)周波数では、グラウンドは本当に接地しているわけではないため、同じネットワーク内で同時に2つの接地スペクトルを可能にしてRFI(無線周波数干渉)を除去する技術がこのネットワークに組み込まれていることです。一般的なルールとしては1番ピンをリフトして、もしノイズが出ればこのスイッチを切り替えてノイズレベルが下がるかどうか試して下さい。また、注意しておかなければいけないのはノイズには他の様々な原因があるということですが、このスイッチによって、プリアンプとパワーアンプ間に発生するグラウンドループ(ノイズ)は多くの場合解決されるでしょう。

**PREAMP OUT 1/4"(6.3mm)ジャック** このジャックはアンバランス端子となっており、+4dBu(ラインレベル)、最大アウトプットレベルが約+6dBuを出力することができます。このアウトプットは、ベースアンプの"POWER AMP IN"やエフェクトループのRETURNジャックに接続するのに最適です。このアウトプットはファンタムパワープロテクトされていますが、1/4"(6.3mm)インプットでファンタムパワー機能があることはほとんどないでしょう。

**EFFECTS LOOP** コンプレッサーやEQなどの"シリアル"タイプ、ラインレベルの外部エフェクト機器を接続するための、1/4"(6.35mm)TS(Tip-Sleeve)端子のシリアル(シリーズ)エフェクトループ(FX SENDとFX RETURN端子)です。ディレイ、リバーブ、ハーモナイザー、オクターバーなどのパラレルタイプのエフェクトでも、外部デバイス側のWET-DRY(ウェット-ドライ)ミックスコントロールの設定次第で使用することも可能になります。このループはマスターボリュームコントロールの直前に位置しています。RETURNジャックは、プラグがジャックに挿入されるたびに信号を遮断し、プラグを外すと自動的にエフェクトループをバイパスする"スイッチ"ジャックのため、ループを使用していない場合SENDジャックをポストEQ(およびHPFを含む他のすべてのトーンシェイピングコントロール)、プリマスターボリュームアウトとして使用することができます。このループはラインレベルに対応しており、インストゥルメントレベルのペダルでの使用は想定されていません。

**DIRECT OUT XLR ジャック** このジャックはアンバランス端子となっており、-30dBu(マイクレベル)、最大アウトプットレベルが約-10dBuを出力することができます。一般的なオーディオコンソールに接続するのに最適で、ファンタムパワーを持つインプット信号からの誤った接続に備えて完全なファンタムパワープロテクトを備えています。

**DIRECT OUT GROUND LIFT スイッチ** このスイッチで、XLR DIRECT OUTコネクターの1番ピンからサーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、アンプに信号を送る際の1番ピン(シールド)の接続には影響されません。1番ピンはほとんどの場合アンプのグラウンドバスに接続されていますが、しばしば(建物のグラウンド/アース環境の電位差によって異なりますが)通常の接続状態でグラウンド間に電流が流れることでハムノイズを発生させます。これに対して送信側でグラウンドをリフトさせることにより、シールド状態を保ったまま、信号を伝送するコンダクターにハムノイズを引き起こすアース電流をカットすることができます。これを複雑にする1つが、非常に高い(ラジオ)周波数では、グラウンドは本当に接地しているわけではない

め、同じネットワーク内で同時に2つの接地スペクトルを可能にしてRFI(無線周波数干渉)を除去する技術がこのネットワークに組み込まれていることです。一般的なルールとしては1番ピンをリフトして、もしノイズが出ればこのスイッチを切り替えてノイズレベルが下がるかどうか試して下さい。また、注意しておかなければいけないのはノイズには他の様々な原因があるということですが、このスイッチによって、プリアンプとパワーアンプ間に発生するグラウンドループ(ノイズ)は多くの場合解決されるでしょう。

**DI OUT SOURCE スイッチ** このスイッチで、DIRECTアウトから出力される信号ソースのルーティングを選択します。PREのポジションでは、信号はインプット・バッファーから直接出力されます(プリゲインコントロール)。POSTのポジションにすると、信号は4バンドEQセクションのアウト、マスターボリュームの直前から出力されるため全てのトーンシェイピングコントロールとHPFの効果が信号に含まれます。通常PA用としてはハウスエンジニアはPRE EQのSEND信号を好みますが、理由はエンジニアのPAシステムはステージ上の機材とは異なり、ステージ上では良いサウンドのEQのセッティングになっても、より大きなシステムやステージのような広い空間、あるいはミックスの状況などで上手く機能しない場合があるからです。レコーディングでは、エンジニアの目指すサウンドに応じてPRE、POSTのどちらでも使用できます。

# ***SUBWAY® PLUS BASS DI-PREAMP***

## ***Specifications***

Output Levels:	Nominal	Maximum	(nominal)
Preamp Output (XLR balanced):	+4dBu	+12dBu	(line)
Preamp Output (1/4" unbalanced):	0dBu	+6dBu	(line)
DIRECT Output (XLR balanced):	-30dBu	-10dBu	(mic)
Signal to Noise Ratio:	-77dB (20-20kHz, unweighted, battery operation)		
Maximum Available Gain:	~45dB, (eq controls flat, passive mode, XLR preamp output))		
High Pass Filter:	2 pole fixed, 2 pole variable, 24dB/octave, 30Hz-125Hz		
Equalization:	Bass: +14dB/-14dB @ 40Hz [note 1] Low Mid: +14dB/-14dB @ 150Hz-1800Hz (sweepable) High Mid: +14dB/-14dB @ 300Hz-5000Hz (sweepable) Treble: +11dB/-14dB @ 4kHz [note 1]		
Power Requirements:	9 V alkaline battery or 9 VDC external power supply (2.1mm, center negative)		
Current draw:	<50mA average		
Battery Life:	~12 hours average		
Size:	8.19" (208mm) wide x 5.50" (140mm) deep x 2.56" (65mm) high [note 2]		
Weight:	Approx. 2 lbs (0.91 kg) [note 3]		

[note 1]: measured approx. 1 octave from knee

[note 2]: including feet and controls

[note 3]: not including battery

商品改良のため、仕様や外観は予告なく変更されることがあります。



## ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: [service.japan@gibson.com](mailto:service.japan@gibson.com)

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）